



《タイガーマスク》は団塊の世代から50歳代にかけて大変人気のあったプロレス漫画である。ルール無用の悪役レスラーとの死闘に目が奪われることが多かったが、一方で身寄りのない子供達を預かる児童養護施設出身の伊達直人ことタイガーマスクが施設に陰ながらいろいろ援助する設定にこの作品の特異性があった。スポーツ根性物が全盛期の時代の漫画界にあつて異色を放つた作品でもあつた。哀愁を帯びた伊達直人の背中が今でも鮮やかな記憶として臉に残っているとされる方々も少なくないと思う。その後、漫画の世界か

## タイガーマスクと『繁栄の中の貧困』

情報広報部副部長

橋本 洋一

ら飛び出て、現実のプロレス界に《タイガーマスク》が軽やかな身のこなしで颯爽と登場したことに驚かされた。そして、長い沈黙を破つて再び《タイガーマスク》が登場した。全国津々浦々で、児童養護施設にランドセルやお金の寄付が相次いだ。時代の不安定さを象徴する事件が後を絶たない中で、温かい愛の手を差し伸べてくれる善意に満ちた人々の存在を改めて知ることができた。

人間の精神レベルは平気で人を殺傷した

り、振り込み詐欺をするような最低のレベルから、絶大なる愛の奇跡を遂行されたコルベ神父やマザーテレサのような気高い人々まで多段階であるが、多くの人々は、両者の間にあつて、善意の心を持ちつつもなかなかその善意を実行に移すことができないのが現実なのかもしれない。

日本のある町に住んでいるある無名の善意の固まりの人々が恵まれない人々に、淡々と援助の手を差し伸べ続けていることは間違いない事実であろう。それは、今回の《タイガーマスク》の登場前からあつたことだろう。

言い換えれば、《タイガーマスク》は今回の報道以前からすでにいたとも言える。寄付をする際に、匿名ではなく、名乗り出てほしいとの意見があり、匿名である限り、一時的なことで終わってしまうのではと、今回の《タイガーマスク現象》を懸念する声があがっている。

前述したコルベ神父やマザーテレサではない我々凡人の中にも、自分自身のできる範囲内に限られるものの、真に困窮している人々に愛の手を差し伸べようとしている人々がいることを今回の現象は示してくれたと言えるだろう。

2010年度の社会保障給付費(年金・医療・介護)が105兆円になった。日本国が

世界に誇る他国に例をみない国民皆保険制度が導入された1961年、日本人の平均寿命は現在より18歳も低い65歳で、年金は長生きのリスクに対応するものという位置づけであつたが、平均寿命の伸びによりほとんどの人が年金を受け取るようになり、財源不足に陥ってしまった。

こういった状態に陥ることは予測されていたにもかかわらず、何ら対策が講じられず、また先細りする年金を一部の公務員幹部が流用する事態が多発したが、何ら罰せられることもなく、うやむやのうちに終結を迎えたのもついでこの前のことである。日本国は時代にそぐわない制度を有し、範を示すはずの公務員が襟を正した行動を取らない倫理性の欠如した制度疲労国家となつた。

先日、私の年金受取予想額の書類が届いた。前回より年間約20万円減額されていた。老後の生活資金としての年金制度は崩壊の縁にある。現時点でも5万円以下の年金しか受給されない貧困の高齢者が500万人もいるとされている。一方、上場企業の増益が報道されているが、一般国民の生活に浸透していない。所得格差が拡大している。汚染された水を飲み生命の危機にさらされている発展途上国の子供達に比べたら、まだ恵まれているという事実はあるが、とても先進諸国とは思えない《繁栄の中の貧困》という生活実態が浮かび上がってくる。

《生活が一番》と言つた政治はどこに行つてしまつたのか？